

RID 2780

茅ヶ崎ロータリークラブ週報

2023-2024 年度テーマ

第 64 代会長 杉本 剛昭

第 64 代幹事 安武 勝

Painted by Kenzo Tanaka

世界に希望を生み出そう

〔事務局〕 〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町 13-29 茅ヶ崎商工会議所 3 階 TEL: 0467-83-6060 FAX: 0467-83-9915

メール: c3rc@io.ocn.ne.jp 〔例会場〕 〒253-0073 茅ヶ崎市中島 1341 コルティール茅ヶ崎 TEL: 0467-87-0002

2024 年 2 月 15 日(木) 第3049回例会 天気:晴れ 司会:木村信一副幹事 No. 29

＝本日の例会行事＝

- ◇歌唱「それでこそロータリー」「覇気あれ我クラブ」 ◇会長挨拶 ◇幹事報告
- ◇委員会報告 [クラブ研修 他]
- ◇卓話 佐藤貴仁様 『台湾の高齢者コミュニティ「玉蘭荘」の存在とその意味』

◎ゲスト・ビジター紹介

佐藤貴仁様 (厚木上教会・ゲストスピーカー)

◎幹事報告

◆ガバナー事務所より

◇会長エレクト研修セミナー (PETS) 開催のお知らせ

●3/9 (土) 10:00 点鐘 ●懇親会 17:45～

19:00 ●藤沢商工会館ミナパーク 3F & 5F 会議

室 / 6F 多目的ホール

◇『ハイライトよねやま』 vol. 287・・・全会員へ
配信済み

◆ロータリー米山記念奨学会より ◇米山功労クラブ感
謝状送付の件 ●第47回 米山功労クラブ

◆台北市松年福祉会より ◇玉蘭荘だより 181号

◆タウンニュース

吉田恵子君 厚木上教会の佐藤様、玉蘭荘の話楽しみです。

大森竜太郎君 本日 2 月 15 日は娘彩可の出産予定日として、朝からドキドキ・ソワソワの 1 日を過ごしています (笑)。ゲストスピーカーの佐藤貴仁様、本日はありがとうございます。卓話楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

成田栄二君 ゲストスピーカーの佐藤様、卓話よろしくお願いします。

河本啓伸君 ゲストスピーカーの佐藤様、玉蘭荘の話、楽しみです。4/21 (日) 春のライブを行います。地区協議会と日程がかぶっておりますので、出席義務者の方は地区協議会にご参加ください。私同様スチャカロータリアンの皆様のお越しをお待ちしております。

和田幸男君 所用のため、総体します。

澤邑重夫君 佐藤さまようこそ。本日は卓話よろしくお願いいたします。さて、家族でさっぽろ雪まつりに行きました。1 時間 30 分ほど飛行機に乗ると、あっという間に北海道へ。天気は良いのにススキノはものすごく寒かったです。明日は福島へ視察なので、5 時 45 分に会議所に行かねばなりません。果たして寝ている暇はあるのでしょうか。

杉田祐一君 厚木上教会・佐藤様ようこそいらっしゃいました。昨年 9 月に玉蘭荘でお会いし、当クラブの例会で再会できたこと、とても嬉しいです。卓話もどうぞよろしくお願いいたします。

大箭剛久君 佐藤様、本日はよろしくお願いいたします。昨年玉蘭荘に伺った際、室内に会員の方々の修二が飾ってありました。その中でひと際目を引いたのが「今夜は飲むぞ」と書かれていた半紙で、まだまだ若い者には負けなぞ、という気概を感じました。



ソングリーダー岩井会員、出席報告の横山会員、スマイル報告の田中毅会員

スマイル報告 田中 毅会員

杉本剛昭君 & 安武勝君 今日は暖かい日和ですね。厚木上教会・佐藤貴仁様、ようこそお越しくださいました。本日の卓話どうぞよろしくお願い申し上げます。

田中賢三君 佐藤貴仁様、今日は台湾の話を楽しみにしております。次回研修委員会 3 月 7 日例会後、よろしくお願い致します。

日時	回	現会員	計算会員	出席	MU済	欠席	暫定出席率	修正出席率
2/8	3048	46	43+1	32	3	9	79.55%	
1/25	3046	46	43+1	32	4+0	8	81.82%	81.82%

加瀬義明君 佐藤様、昨年の玉蘭荘訪問時にはお世話になりました。今日は卓話どうぞよろしくお願い致します。

富田桂司君 ゲスト佐藤様ようこそ。今日は卓話よろしくお願ひ致します。先日は雪が降ったと思ったら、もう春一番が出そうな陽気ですね。例会に来る途中、クシャミが始めました。まだマスクのお世話になりそうです。

木村信一君 佐藤貴仁様、今日はありがとうございます。お話し楽しみです。

伊藤和明君 昨日生まれて初めてチョコレートを買ってプレゼントしました。ホワイトデーが楽しみです。

榎木太郎君 生きているダスキンモップである我が家のねこは毎日庭でゴロゴロして花粉をたっぷり持ち込みます。目がかゆいし、鼻水も…。暖かい日はうれしいですが、異常に早い変化もどうかと思うこのごろです。

平賀裕祥君 佐藤様今日はよろしくお願ひします。今日は双子の息子が高校受験で落ち着きません。

宇野雅仁君 佐藤貴仁様ようこそいらっしやいました。また、先週はABCにてお集りいただき誠にありがとうございます。

樋口康雄君 佐藤様、ようこそいらっしやいませ！本日の卓話楽しみにしています。

大森翔平君 ゲストスピーカーの佐藤様、宜しくお願ひ致します。インフルエンザが大流行しているそうですね。体調に気をつけたいですね。

田中 毅君 佐藤様、本日の卓話宜しくお願ひ致します。楽しみにしています。

[本日 20件、25,000円です]

卓話「台湾の高齢者コミュニティ「玉蘭荘」の存在とその意味」日本基督教団 厚木上教会 佐藤貴仁様
-かつて「日本人」であった彼らが集う理由とは-

2. 日本語を話す台湾人との出会い

「台湾には日本語を話すお年寄りがたくさんいる、ということは聞いていたが、実際に話したのはそのときが初めてだった。あまりの流暢な日本語に驚き、戦後50数年を経てなお子供のときの恩師を大切に思っているその気持ちに打たれた」

(2010 酒井充子『台湾人生』文藝春秋)

「戦後60余年が経過しているにも関わらず、誰もが自分の人生を熱く語り始める姿に、言葉にならない感情が押し寄せた」

(2007 平野久美子『トオサンの桜』小学館)

3. 日本統治時代の台湾の歴史 (下表参照)

1895年の下関条約以降、台湾は日本に当地されるようになり、日本語による初等教育普及率も年々上がりました。それに起因して、台湾に住みながら日本語で教育を受けたため、日本語でしかうまくコミュニケーションができない台湾の人たちが増えました。

4. 玉蘭荘の概要

台北市に所在する高齢者のためのデイケアセンター 日本基督教団が母体となり1989年に開所 台湾にありながら日本語によるケアを実施 活動は月曜日と金曜日の週2回(10時~15時) 活動内容は牧師のメッセージ、歌唱、手工芸、講座等 来所者の約9割がいわゆる台湾日本語世代(2000年~2010年当時)

ホームページの説明文(抜粋)

「日本語を通して心身ともに支えていく高齢者の為のデイケアセンターを目指して誕生しました。戦前や戦後に台湾や中国の方と結婚した日本婦人や、かつて

3. 日本統治時代の台湾の歴史

年	出来事	内容
1895年	下関条約	日清戦争に勝利した日本に対し、台湾を割譲 内地延長主義による統治開始(義務教育開始)
1898年	「公学校規則」 発令	国語伝習所から公学校へ 教育主旨は「実学を授け」「国語に精通すること」 修業年齢は8歳~14歳
1904年	「公学校規則」 改正	これまであった「漢文科」を廃止し「国語科」を新設 媒介言語に依存しない本格的な日本語教育の導入
1919年	「台湾教育令」 発令	台湾人子弟を「日本人同様に化育する」方針 より徹底した同化主義を標榜

日本語による初等教育普及率

年代	1904年	1909年	1914年	1920年	1925年	1930年	1935年	1940年	1944年
台湾人	3.8%	5.5%	9.1%	25.1%	27.2%	33.1%	41.5%	57.6%	71.3%
日本人	66.7%	90.9%	94.1%	98.0%	98.3%	98.8%	99.3%	99.6%	99.6%

日本教育を受けた台湾の人々にとっても、日本語によるケアは大きな意味を持っています」

4.1 玉蘭荘に集う人々

過去 50 年に及ぶ日本統治時代(1895 年～1945 年)に当時強いられた日本教育により、文化や習慣までも影響を受けてきた台湾の人々。(台湾生まれの日本人も含まれます。)既に日本教育により自己形成がなされてきたこの人々は、戦後再び台湾の教育を強いられるという境遇におかれまして。

日本統治時代に台湾の男性と結婚した日本婦人で、その後も家族と台湾に残り、子供を育て上げた人々。戦前日本より中国大陸に渡り、敗戦後現地で中国人と結婚し、夫と共に台湾に移り住んだ日本婦人。

(玉蘭荘パンフレットより)

5. ストーリー#1「わたしの母国語」

呉さん

玉蘭荘会員 1926 年生まれ(終戦時 19 歳) 客家系
台湾人 国語家庭

終戦前まで公務員として従事 終戦の年に最初の結婚(後に離婚、再婚)

戦後一時期、主婦業の傍ら自宅で翻訳の仕事に従事

5.1 一回目のインタビュー

*:客家語(はっか語。台湾の客家人が用いる語の総称)?

呉:客家語。そう、それをね、聞いて分かる。書けない。その、文章にするのができないの。わたしが一番、あのそうね、何が得意かって言ったら、やっぱり日本語の方がね。もう小さい時からみんな日本語、日本語で育ったからね。日本語で育ったから。だからわたしはね、日本語は、ほんとにわたしの母国語とおなじ。

*:それは意識的にそうした、自分の意志でそうしたっていう…

呉:意識的じゃなくて、もうほんとに自然にわたしのものになってしまっているんです、日本語がね。ここ日本語で言わなきゃならんていうような、ああいう気持ちもなくて、やっぱり口から出る、頭から、頭で考えることすべてがみんな日本語、日本語なんです。

5.2 二回目のインタビュー

*:何で、日本語から離れることがなかったのかなと思ったんですけど。

呉:それは小さい時から躰けられてるからね、自分の母国語みたいなね。(日本語から)離れたら、わたしの生活がもう、本当にこの世の中から、断ち切られたみたいなね。だから日本語はわたしの母国語。

*:じゃ、別に日本語にこだわっていたという訳ではない?

呉:まあ、こだわってっていう訳ではないけどね、やっぱり忘れたくない。言葉って話さないとそのうち忘れてしまうんですよね。(中略)

*:何で日本語を忘れるのが嫌だと思ったんですか。

呉:もちろん、わたしの唯一の言葉でしょ?これ。母国語みたいにね。あの、たった一つのね、わたしの意思表示のできる言葉ってのは、日本語しかないんです。

5.3 三回目のインタビュー

呉:一番大きかったのはやっぱり宗教ですね。

*:うん。

呉:わたしを支えたの、言葉ね。

*:日本語?

呉:そう、日本語ね。

*:うん。

呉:言葉って言ってもたくさんあるけど、日本語。

5.4 自分は「日本人」である

「もちろんわたしはね、時代に即して、『今あなたは何人ですか?』って聞かれたら私はやっぱり台湾の人だから、台湾人って言いますよね。でも、こんな幼い、小さい時から日本語で育ったからね。今、わたしが『台湾人』だって言ったところで、心では、『いや、あなたは日本人。あなたは台湾人ではない』っていうその反応をね、こんな年になっても、やっぱり自分で感じるんですよ」

6. ストーリー#2「日本人スタッフの視点」

A さん(活動歴 18 年 2012 年当時)

「言語という問題を考えたときに、一般の施設とは違う視点でケアを行わなければならない」

「何をケアするかというと、『言語のケア』」

B さん(活動歴 21 年 2012 年当時)

「日本語が大きな結び目となって繋がっている」

「台湾の日本語世代の方にとっても、日本語でケアすることが必要なのではないかと気づいた」

6.1 福祉施設における活動という認識

A さん

初めはね、老人福祉の頭で入ったんですよ。

B さん

来る皆さんが何を望んでいるかっていうことですよ。最初は分かりませんでした。何か一生懸命しあげなきゃいけないと思ったんですよ、ボランティアですから。



1. 佐藤貴仁様の略歴紹介

2007 年～2010 年 交流協会(現・日本台湾交流協会)台北事務所日本語専門家

2012 年～2013 年 玉蘭荘を主なフィールドにいわゆる「日本語世代」の聞き取り調査を実施(台湾人 28 名 日本人 2 名 計 30 名)

2013 年 台湾での調査時にキリスト教に導かれ、帰国後 2014 年に受洗

2018 年 日本聖書神学校に入学し、2022 年 3 月に卒業

2022 年 日本基督教団厚木上教会に赴任

6.2 来所者に接するうちに感じた違和感

Aさん

半年位してから、私、違うなあというのに気がついたんですね。そうじゃないと。初めは分からなかったですよ。何やったらいいか、何するところか…。普通の老人の福祉、日本とはちょっと違うし、何なのかしらっていう感じで。

Bさん

お茶を沸かししたり、スープを作ったりすることも大事なことだし、私もそんなに負担に感じないでやったんですけども、何かねえ、それだけじゃないものを感じるようになったっていうか。3年位ですかね、経ってから。

6.3 「日本語」で話し、聞いてもらうことが来所者の喜びであることへの気づき

Aさん

自分のアルバム開いたり、色んなことを、少しずつ人生をね、語ってくれたから。その時に私、ああこの方は日本教育受けてるから、女学校時代のそういう思い出や色んなことは、私に話したかったんだなと。私に伝えたかったんだと思います、日本人の代表として。日本人に伝えたかった。

Bさん

話を聞かせてもらうことで、彼らが非常にいい表情で話されるんですよ。それでそれを「そうだったんですか。私、知らなかった」って。何もできないですよ、それは。私は話を聞かせてもらう、それだけでした。

6.4 「日本人」が「日本語」で関わる意味とその重要性に対する認識

Aさん

日本人の役割として共感を持って、一緒にその人たちの辿ってきた人生、日本教育を受けた人生を傾聴し、気持ちを持ってシェアしていく。それは大切ですね。彼らがそういうことやりたいのは日本人なんですから。台湾の方に語っても、あんまり理解されないし、共感がないと思います。そのような歴史に翻弄された方々が、日本人の人にもしっかりと関わってもらって、私たちの人生の最後をきちんと見送ってほしいという、非常に強い要望が感じられたんですね、私自身、一人一人を見るとき。

Bさん

テクニク的なケアっていうか、台湾の高齢者の人たちに対して日本人の立場からすると、そういうことではないんじゃないかと思ったんです。相手の心の訴え、非常にあの、恋い焦がれるっていうか、そういう日本に対する思いを持つてる人たちに、あちらも喜んで話して、私たちも聞かせてもらう、そのキャッチボールをしながらやることの方が、あの時の私の立場では、そっちの方が重要だと思ったんですよ。

6.5 玉蘭荘における日本語によるケアとは

玉蘭荘におけるケアのあり方として、「傾聴」と「共感」により受け止めることが大切であるという気づきがあった。

戦後社会において、押し黙るしかなかった来所者にとって、玉蘭荘では憚ることなく日本語で語ることが許され、受け入れられることが彼らの心のケアに繋がっていると、スタッフが感じていることが分かった。来所者の日本語に対する思いから、「言葉は人生を支えるもの (Bさん)」だと捉えると、「日本語」は彼らの一部であり、スタッフの「日本語によるケア」は、彼らそのもののケアであるといえる。

7. 玉蘭荘の存在とその意味

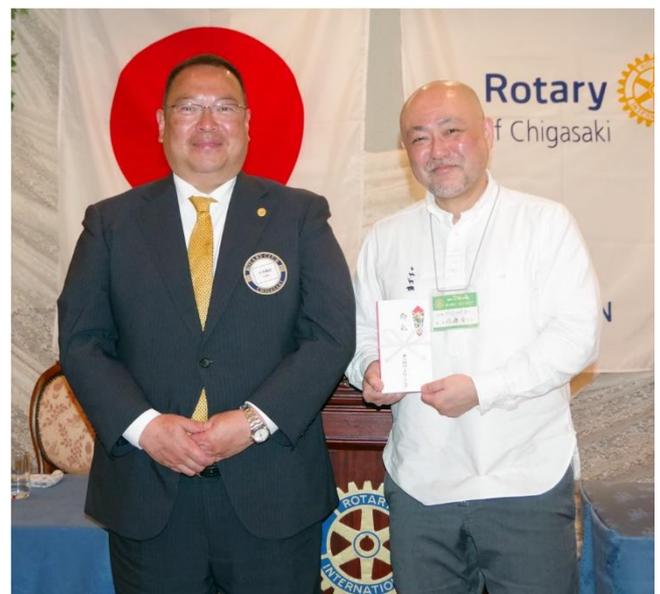
玉蘭荘とは、日本語を介した心のケアが行われる場所であり、彼らの一部である日本語で受け止めることによって、その人の人間性を回復させる場所でもあるのではないかと。

参考文献

大月克巳 (2011) 「台湾『玉蘭荘』が創立 22 周年 日本語で高齢者デイケア 今も残る統治時代の影響」『厚生福祉』 5841, 2-4

佐藤貴仁 (2008) 「日本語で活動を行うデイケアセンター『玉蘭荘』」財団法人交流協会『いろは』 27 号, 1-2

徳田達郎 (2012) 「台北に派遣されたもうひとつの使命」東京学芸大学国際教育センター『在外教育施設 指導実践記録』 第 35 集, 208-209



佐藤貴仁様 卓話ありがとうございました

訪台の度にお訪ねしている玉蘭荘では現在も 80 人ほどの利用者がいるとのこと。玉蘭荘が今後どういう役割を果たしていくのか、ということに関しては日台の文化的交流の場所など現在模索中とのことでした。